

合気道の稽古で得たもの

厚木市林道場

佐々木善生

合気道と出会う事が出来たのは、三重県四日市で勤務時、先輩からの一言でした。「日本男子であれば、武道の一つ位身に就けた方が良いのでは」の一言でした。先輩は、大学時代空手を習得しており有段者でした。先輩が合気道を始めた理由は、空手は、学生時代の動きを今は、出来ないのです、合気道を始めたと言っておりましたが、合気道を知らない私は、理解できませんでした。先輩は、合気道を初めて二年目でした。世間では丁度、Jリーグが創設され、プロ野球からJリーグへと人気移ってしまいそうな勢いの最中ででした。私は、武道に関して全く経験がありません。柔道、柔道、少林寺拳法を習っている姿を観てとても羨ましく思っていた光景を蘇らせ、ま

た、当時、私の勤務先でも、外国人の採用等が増えており、外国籍の方と出会う機会が多くなっていったので、其の人達に、先輩と同じように、「日本男児は、武道の一つ位マスターしていていると思った。」なんて聞かれた時に恥ずかしくないように、勇気を出し合気道入門の扉を開ける事としました。今思いますとながら、単純な動機で入門したのだろうと恥ずかしくなります。当時、家族からも、グローバル化を感じるなら「先に語学の習得でしょう」と言われた事も思い出しました。私の始めた道場は、合気会四日市支部の中では、常時十二、三人での稽古人数の道場でした。その道場で、最初に、衝撃を受けたのがカナダ出身で、公立中学の英語講師に就かれています。合気道三年目である方の所作の、美しさでした。道場に入退室時、先生に対する挨拶、正座時の挨拶、姿勢、立ち礼時の姿勢、目線、また、一つ一つの間が、とても綺麗で驚きました。外国人が武道なんてと見下して

おりました。外国からすれば、礼一つが、合気道であり、所作に関しても、先生の指導を素直に受け入れることができているからだ。後から気付きました。社会人である私は、日常生活の中で、挨拶、礼をする機会は、彼よりも多いかと思いますが、目線、間など全く気にした事ありませんでした。また、入会時に先生から挨拶等の指導は、受けておりますが、その時は全く重視しておりません。筋肉質でありましたが、正座をする度にシビレ、大騒ぎして皆を和ませておりました。長めの正座は、苦手であった事は、ソファーの文化には、無い環境の生かと感じました。ただ、所作に関して私に与えた影響は本当に衝撃的な出来事でした。体術はともかく、外国人に所作を習うとは全く想定しておらず、悔しく恥ずかしい経験は、今でも大変貴重な経験として、多くの機会に役立っております。日本として美しい所作を習う機会は

日常生活では、ほとんど無くなっており、武道でしか習う機会は無いのでと、気付かされました。私にとって合気道を習って最初は大変恥ずかしかった経験は、受身が出来無い事、技が左右対象に出来ない事もありました。が、外国人の会員に比べて所作の出鱈目さである事に気付かされた事は、本当に屈辱的な思いであった事は未だに忘れません。其の後仕事の都合で、神奈川に転勤しても、現在迄、合気道を稽古する事ができているのは、年齢、性別、国籍関係なく多くの会員との出会いがある事、もちろん合気道の技を覚え磨き、常に相手の全てに合わせて共に心地よい汗を流す。この楽しさ、難しさ、時には厳しさが合気道にはある事を合気道御指導頂く先生方に教えて頂いた賜物と大変感謝しております。引続き合気道の奥の深さを少しでも理解、習得して、合気道の素晴らしさを多くの人に伝へ、健康の為、楽しく稽古に精進したく思っております。

